

令和6年度
第2回

江東区総合教育会議議事録

令和7年2月5日（水）

江東区教育委員会

令和6年度 第2回江東区総合教育会議 議事録

- 1 開会年月日 令和7年2月5日（水）午前10時00分
- 2 閉会年月日 令和7年2月5日（水）午前11時00分
- 3 開会場所 江東区文化センター6階 第1、2会議室
- 4 出席委員 区長 大久保朋果
教育委員 本多健一朗（教育長）、安部敏啓、
鈴木清人、浅野美智子、大久保善子
- 5 出席職員 青柳教育委員会事務局次長
瀧澤庶務課長、西尾学校施設課長、佐久間学務課長、
金指指導室長、木内教育支援課長、大田地域教育課長、
吉木江東図書館長、梅村深川図書館長、
大塚企画課長

6 議題

- 1 江東区教育施策大綱の改定について

7 審議概要

○青柳次長

定刻となりましたので、これより令和6年度第2回江東区総合教育会議を開会いたします。本日の会議につきまして、傍聴したい旨、1名の申し出がありました。傍聴を認めますので、事務局は速やかに、傍聴人を入室させてください。それでは、開会にあたりまして、主催者であります、大久保区長よりご挨拶をお願いいたします。

○大久保区長

皆様おはようございます。本日はご多忙の中、江東区総合教育会議にご参集を賜り、ありがとうございます。本日の議題は、江東区教育施策大綱の改定についてでございます。教育施策大綱とは、地方公共団体の長が当該地域の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目的や根本となる方針を定めるものでございます。現行の教育施策大綱は、江東区長期計画と整合性を図り策定された本区の教育振興基本計画である、教育推進プラン・江東(第二期)に掲げる教育理念の実現に向けて設定した、「4つのテーマと教育のICT化」で構成されております。こうした中、教育施策大綱の計画期間が令和7年度末をもって終了することから、第三期の教育推進プラン・江東の策定を進めていくにあたり、区の教育目標や施策の根本的な方針を定めた次の教育施策大綱を策定する必要があるとございます。私の教育に対する考え方や目標につきましては、現在策定中の江東区長期計画(後期)の施策等

に掲げており、第三期の教育推進プラン・江東と、整合が図られていくものと認識しています。こうしたことから次期教育施策大綱につきましては、大綱(素案)にお示しするように、江東区長期計画(後期)に掲げる施策を、教育施策の柱に位置付けたいと考えております。教育施策大綱の改定にあたっては、総合教育会議で協議することと法に定められていることから、今般ご協議をいただきたく、ご提案をさせていただきました。教育委員の皆様からのご意見を伺いながら進めて参りたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。

○青柳次長

ありがとうございました。それではお手元の次第に沿って説明させていただきます。ここからの進行は大久保区長にお願いいたします。区長、よろしくお願いいたします。

○大久保区長

それでは早速議題に入ります。議題1 江東区教育施策大綱の改定について、事務局より説明願います。

○瀧澤庶務課長

それでは私から、教育施策大綱(素案)についてご説明をいたします。資料の1をお願いいたします。まず初めに資料の最後のページ、裏面の方を参照をお願いいたします。教育施策大綱とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成26年9月に改正されたことに伴い、地方公共団体の長は、地域の実情に応じ、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとされたものでございます。これは区における教育の目標や施策の根本的な方針となるもので、教育行政等の変化に対応するため、定期的に見直しをするものでございます。ただいま区長の方からもご説明ありましたが、現行の教育施策大綱は、令和7年度までを期間としております。今般、江東区では長期計画(後期)の策定、また、教育推進プラン・江東(第二期)の計画期間が、来年度に終了するため、仮称第三期プランを策定することも踏まえ、本教育施策の大綱の改定を進めて参るものでございます。この江東区教育施策大綱の構成ですが、印刷をいたしますと、A3の見開きで2つ折り、表紙を含めて4ページの構成としております。中面の見開きのページをお願いいたします。こちらが教育施策大綱の中身になります。初めに左上に江東区基本構想から目指すべき姿の1つである、未来を担うこどもを育むまちを示しております。その右側に、この基本構想における目指すべき姿の実現に向け、教育における目指すべき姿を示しております。この江東区教育施策大綱が、区の基本構想における目指すべき姿を実現するための総合的な施策の方針であり、基本構想と本大綱があるべき姿、また将来像を共有しているということを、この右向きの矢印、また握手のアイコンで示しているものでございます。下の段、江東区教育施策の取り組み方針でございますが、本大綱は、区長の教育における目指すべき姿である、江東区長期計画(後期)に掲げる3つの施策であります。一人一人に向き合う学校教育の充実、多様なニーズに応じた教育環境の充実、こどもが安全に過ごせる居場所環境づくりを柱とし、それぞれの取り組み方針を、長期計画後期と共有しているものでございます。本日でございますが、こちら素案としてお示しをしたものでございます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大久保区長

ありがとうございます。ただいま事務局から、江東区教育施策大綱(素案)について説明をいたしました。令和8年度からの教育施策大綱の改定について、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。はい。安部委員

○安部委員

改定後の教育施策大綱について、江東区長期計画(後期)における施策をもとに、1点目に、一人一人に向き合う学校教育の充実、2点目に、多様なニーズに応じた教育環境の充実、3点目に、こどもが安全に過ごせる居場所環境づくりが施策の柱として掲げられ、社会の状況変化に対応し整理された取り組み方針であり、本区の教育施策大綱の骨格とすることは適切ではないかなと思いました。大綱の内容について、私からは施策の柱1、一人一人に向き合う学校教育の充実から意見を述べたいと思います。取組方針の4点目に、教員の資質能力と学校の組織力の向上とありますが、現在の学校教育は昔と異なり大きく変化しております。教員には、多様な教育指導や対応といった業務内容が増大していると考えます。現在の学校で学んでいる教育活動は、どれも大切ですが、こども一人一人に向き合うための時間をいかに確保していくか、その取り組みが今後必要になってくると思います。教育委員会ではこれまでも教員業務への人的支援やChallenge Wednesdayなどに取り組んでいます。が、さらなるサポートを充実させるためには、どのように進めるべきか、区長はどのようにお考えでしょうか。

○大久保区長

いろんなこどもたちがいる中で、教職員の方に求められる業務が増大していると私も思います。一方で、少子化の中にあって、教員のなり手不足、採用試験でも倍率がかなり低くなっており、教員の質の確保をどう図っていくかといった問題も考えていかなければならないと思います。そうした中で、教職員がこどもに向き合う時間をより確保するため、働き方改革を推進していくというのは、江東区だけではなく、本当に、まず、教職員の負担軽減とあわせて、こどもたちの学びの充実のためには、やはり、ICT化の推進が効果的だというふうに考えております。ICT化につきましては、来年度からICT推進校を設置していく予定です。これによって、推進校の取り組みはどの学校にも、大きな効果が期待されますが、教育委員会の方から具体的な進め方について、説明願います。指導室長。

○金指指導室長

ICT推進校についてご説明いたします。こちらは、江東区長期計画(後期)に合わせまして、来年度から5年間で、小中学校全校を指定して、ICT機器の効果的な活用をさらに進めていくものでございます。取り組み内容としては、先進的な研究をしている講師を招いて研修会を実施したり、周辺機器の購入による環境整備などが学校を主体的に取り組めるようなものとなっております。推進校に該当した学校には、取り組みを各校に周知できるような報告書を作成していただき、全校に周知することで、区全体で個別最適な学びの実現を目指していくものでございます。

○大久保区長

はい、浅野委員。

○浅野委員

私からは、施策の柱2、取り組み方針1 多様なニーズに応じた教育支援の推進についてお聞きします。ここには、多様なニーズとありますが、区内には外国籍の方や低所得世帯など、様々な家庭環境のこどもがいます。どのような家庭環境、こどもの状況にあっても、すべてのこどもたちが明るくのびのび通うことができる教育環境の整備が大切だと思いますが、例えば、低所得世帯の家庭に対する取り組みとしては、どのような取り組みを進めていくのが有効なのか、区長の考えをお聞かせください。

○大久保区長

はい、ありがとうございます。どのような家庭環境であっても本当にそのこどもの能力を伸ばしていける、そういった環境の充実是非常に大切だと思います。これまで、就学援助の拡充、また、高校進学後の支援としての奨学金、こちらの貸付型から給付型にするなど、低所得世帯のこどもたちが、自分の望む進路を選択できるような支援を充実させています。さらに来年度予算では、教育長とも話をして、やはり江東区ならではのいろんな体験をしてもらいたいということから、豊かな体験活動を進める取り組みということで、これまで小学生の5年生が体験していたところ、中学生でもう一度、有明四季劇場、あと限られた学校にはなってしまいますが、来年できる辰巳のアイスアリーナ。こういった区内にある施設を活用して、児童・生徒の皆さんが様々な体験ができるそういった予算を計上しております。今後また特別な支援を必要とするこどもたちが増加することが予想され、放課後デイサービスについても、非常に重要なことだと思います。まずこうした支援ニーズの多様化にも、区としても具体的に取り組み、また、日本語指導が必要な外国人のお子さんも増えており、特別な支援が必要なお子さんたちがおります。実際の教育現場で課題となっていることや、今後の対応予定等、もし教育委員会の方であったら、教えてください。はい、教育支援課長。

○木内教育支援課長

こどもを取り巻く家庭環境の問題や不登校などの対応については、スクールソーシャルワーカーを活用することによって、充実を図っているところです。令和5年度よりスクールソーシャルワーカーを5名から10名に増員し、週1回程度、すべての学校を訪問する学校巡回型としました。これにより、支援の必要なこどもを見逃さず、学校と緊密に連携を図りながら、適切な支援先につなげるように取り組んでいるところです。また、教育センターに保護者向けのワンストップ型教育相談窓口を設置しております。窓口の電話相談員が、保護者の心配事についての内容を丁寧に聞き取るとともに、相談員の助言だけで解決できないケースについては、心理士の面談や相談内容に関する担当部署につなげているところです。増加傾向にあります、日本語指導が必要なこどもへの支援につきましては、母語で指導ができる講師を学校に派遣し、指導を行っているところです。また、現在、教員とこどもが持つタブレット端末を活用した翻訳ツールや学習アプリによる支援についても検討しているところです。特別な支援が必要なこどもに対しては、各学校へ学習支援員を配置し、支援をしています。今年度は、発達障害や情緒障害のために、特別な指導を行う特別支援教室の巡回指導員

のいる拠点校4校を増設し、体制を強化いたしました。これからも、多様なニーズに応じた支援の充実を図って参ります。

○大久保区長

はい。教育長。

○本多教育長

今、安倍委員の方からは教員の負担軽減の話とか、それから、浅野委員から多様な子どもたちというところがありました。区長からもお話あったように、来年度当初予算で、子どもたちの豊かな活動、予算つけていただいて、非常にありがたいと思っています。今、子どもたちの支援、保護者の支援、様々あるところですけど直接的に子どもたちへの支援を区長が考えてやっていただけたことは非常に、私としてはすごくうれしいことだと思っています。子どもたちが、やはりいろんな豊かな体験ができる、子どもたちが実感を持って、そんなことできたんだなっていうのが味わえることはとてもいいことかなと思っています。そんな中で、江東区長期計画(後期)を受けて、この施策大綱ですけど、安部委員からあったこの一人一人に向き合うという言葉は、すごい大事だなというふうに思っているところです。今日すごく天気がいいんですけど、実は寒い朝でした。僕こういうときに子どもたちが朝どんな気持ちで学校に行ってるのかいつも思うんですね。寒い中で、ポケットに手を突っ込んで歩いてないだろうとか、また朝、なかなか起きられなくて、どんな気持ちで朝迎えたかなとか、家庭で保護者とどんな話をして学校に向かったのかななんて思ったりします。やはりそういうことってすごい大事だと思っていまして、教育委員会もそうですけれど、3万4,251人の子どもたちを預かっている身として、全体としてのことは見ることができるんですけど、やっぱり一人一人の思いを馳せていくことってすごい大事だと思っています。そういった部分でこの一人一人という言葉をしっかり受けとめていくことが必要だろうなというふうに、思っています。偶然この間、外を歩いてる時に、ある男の子をちょっと見かけたんですよ。その子は、ブリッジスクールに通ってまして、なぜその子がブリッジスクールに通ってるかわかったかという、私は何度もブリッジスクールに行っていて、非常に印象的だったんですね。ブリッジスクールで本当に輝いていた子どもの1人だったので、その子が外を歩いてる姿をみて、急いで行ったのに声はかけられなかったんですけど、僕たちってそういうふうに一人一人の江東区に住んでる子どもたちに責任を持ってしっかりとやっていくことが我々の責務だというふうに思っています。そういった部分では、先ほど区長からお話があった豊かな体験活動もそうですけど、安部委員からあったの、一人一人に向き合うための教員の支援ってやっぱりそこはすごく必要になってきます。子どもたち一人一人を見るための先生方の精神的な余裕と時間的な余裕をどうつくっていくかっていうのが大事で、そこに向けてはこれまでも江東区は、人的支援をたくさん今までやってきたところで、教師の負担軽減というところでは、やることを減らすか、人を増やすかだと思います。その中では、江東区として本当に区長のお力もいただきながら、これだけ人的支援を充実させていることは、非常にうれしいことで、さらに今後どうしていくかってことがやはり課題だというふうに思っています。次期学習指導要領の改訂に向けて、文部科学省も動き始めたところでありますけ

れども、残念ながら学習指導要領の内容の削減については言及してないところはあります。ただ、やはりそこが肝心になってくるだろうなというところがありますが、江東区としては、学校と協力しながらですね、効果的な方策を打ち出していくことが必要だろうと思っておりますので、その辺は今工夫して、Challenge Wednesdayもそうですけれども、余計に時間を取らないでやっていくことと、効率化、まさに区長がおっしゃっていたICTですね、そういった機器をうまく活用していくことが大事だと思うので、さらに、この教育施策大綱を受けて、進めていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

○大久保区長

はい。ありがとうございます。はい。鈴木委員

○鈴木委員

それでは私からは、施策の柱のⅡ、取り組み方針2、いじめ、不登校対策の充実から意見を述べたいと思います。悲しいことでありますけれども、いじめや不登校は年々増えている傾向にあります。どちらも未然防止、早期対応が大切ですので、教育委員会としてもアクション24を合言葉に早期に対応するように努めています。今回、施策大綱(素案)でも、不登校の未然防止、早期対応を推進するとあります。これは教育委員会と考えが一致しており、教育委員会では、不登校対策として、こどもかがやきプランを策定して、不登校だけでなく、すべてのこどもが輝けるように取り組んでいるところであります。区と教育委員会がともに協力し合うことで、目指すべき姿の実現に向かっていけるというふうに思いますけれども、区長はどのように推進していくことが効果的だと考えますか。

○大久保区長

これはちょっと個人的な考えになってしまうのですが、本当にこどもの世界ってある種大人の世界の縮図のようなところがあるのではないかなというふうに思っています。今、世界的にも、非常に分断の時代といえますか、自分と違う価値感を受入れるのではなく、排除するような、ちょっとそんな空気が世界的に漂いつつあるのかなと思います。一方で、多様化への対応というところも言われていますが、人間ってやっぱりなかなか自分と違う価値を持った方を、受け入れるなんて実はすごく難しくて、それはもう自分を否定することにも繋がってしまいかねないので、多様化っていうことを一気に進めようとした反動でもあるのかなと。すごく難しい問題だなというふうに思っています。それはさておきそういったことが、こどもの世界の中でも、自分と全然違うお子さんをやっぱり排除するっていうような、何か人間の根本的なそういうところがあるのかなと思っていて、いじめ不登校に対する対応はもちろんなのですが、やはりその江東区が今まで全体でお子さんを見守ってきたように、社会全体でお互いに、助け合うとか思い合うとかそういう時間もやっぱり育んでいくっていうのもすごく大事じゃないかなと思います。実際、実施したアンケートに、思いやりが大事だっていうお子さんや保護者多くて、みんなそういう心を持っていて、そういうふうになりたいなと思っているけれど、なかなかそれが現実世界とマッチングしないっていうのがすごくもったいないなと思っています。実際にそういった不登校になったお子さんに対しては、これまでこどもかがやきプランということで、不登校対策、今さっき、教育長からお話が合ったブ

リッジスクール、また、校内別室指導等も積極的に展開しており、さらに、校内別室指導支援員の配置ということなのですが、こどもかがやきプランのみんな輝くという考え方を軸に、地域全体、学校はもちろんですが学校だけでなく、地域全体で、こどもたちを見守るといような、みんなで課題を共通認識していくということで、区と教育委員会、そしてまた地域協働本部等のそういった地域の皆さんと一緒に、取り組むことで相乗効果が発揮できるというふうに考えています。今回の教育施策大綱でもそういった思い、みんなでというところを示しながら、みんなでみんな輝く教育を応援しようというような考えを盛り込みたいと思います。不登校対策の取り組みについて、具体的に今後の展開がありましたら、教育委員会からご説明願います。はい、指導室長。

○金指指導室長

不登校対策についてご説明いたします。本区では、江東こどもかがやきプランに基づき、現在不登校対策を講じているところです。鈴木委員からもご紹介いただきましたように、不登校傾向にあるこどもだけでなく、江東区でも一人一人のこどもたちみんなを考えることを目指して、この対策には取り組みを進めているところです。具体的には、校内別室指導支援員の配置につきましては、不登校者数の新規数が減っているというような効果が見えていることから、来年度は全校に配置をさせていただくことになりました。先行に取り組んでいる学校の効果的な取り組みを周知しながら、各校のニーズに合わせて進めていきたいと思っています。また、中学校も試行的に実施をしていました、不登校対応の巡回教員については、1名から4名に拡大をして、それぞれの中学校を巡回しながら、不登校対応専門の教員が、各学校を巡回して、不登校の取り組み方針や環境整備などを図っていきたいと思っております。今後も、こどもの個別のニーズに合わせた支援を行うとともに、様々な支援が一体的に行えるよう、江東こどもかがやきプランをさらに推進して参ります。以上です。

○大久保区長

それでは、大久保委員。

○大久保委員

私からは、施策の柱3、こどもが安全に過ごせる居場所環境づくりについて考えを述べたいと思います。教育委員会では、登下校における児童生徒の安全を確保するために、関係機関と連携した通学路の点検を毎年実施しております。行政機関だけではなく、保護者や地域との協力により一層安全が確保できると思っております。ガードレールや信号の設置など、ハード面の設備だけではなく、PTAや保護者、地域の方々によるパトロールを実施するなど、各校で様々な取り組みをしております。小名木川小学校では、1月から新しい通学路を通して、仮校舎への登校が始まりました。通学路の安全が確保できるよう、ストップさんを増員していただきましたが、保護者や町会の方も引き続き見守りをしております。以前の通学路にも、保護者の当番制で見守りも続けております。今後も、地域や学校、保護者、それぞれがこどもたちの安全安心な環境を構築していけるよう、取り組み方針に沿った様々な施策の展開を期待していますが、安全安心づくりに関し、区長はどのようにお考えでしょうか、ご意見をお伺いします。

○大久保区長

小名木川小学校の仮校舎への通学路を大久保委員も見守っていただいて、学校と地域の方と本当に一緒になって、いろんな方策を考えてお子さんを見守っていただいて本当にうれしく思いました。ありがとうございます。また最初の3日間は教育長初め教育委員会の職員の方、現場に立って守っていただいたと聞いています。このように、学校やご家庭また地域が連携してお子さんを見守っていくことが本当に大切だと思います。また、小名木川小学校だけではなくて他の小学校でも本当に多くの方々のご協力で、安心して通学できていると思います。引き続き、教育委員の皆様、教育委員会と行政と地域と連携して、こどもたちを多くの目で見守って行ければと思います。安全確保の取組について、教育委員会からご意見あればお願いします。はい、庶務課長。

○瀧澤庶務課長

各小学校の通学路の安全点検でございますが、毎年夏休み期間中に学校、また、保護者PTAで実施をしておるところでございます。実際に通学路を歩き、また、毎日の登下校の状況や、日々地域で暮らしになる中で、安全に不安な箇所のチェックをしているところでございます。この点検結果につきましては、区の地域交通課のほうで集約をいたしまして、警察、また、国、都、区の道路管理者、また私ども教育委員会事務局のほうでも共有いたしまして、特に確認が必要な箇所につきましては合同で実査という形で現地に確認に行き、改善点をみんなでそれぞれの観点から検討、改善を行っているところでございます。大久保委員からご意見いただきます通りこれまでもガードレールの設置ですとか、或いは信号間隔の延長、私どもとしてもストップさんの配置などについて、また道路管理者の方では注意看板の設置や路面への注意喚起のペインティングなどの対応をして参りましたが、引き続き、このようなPDCAのサイクルによる改善を継続し、こどもたちの安全確保に努めて参りたいと考えております。区長から申し上げました通り、こどもの安全確保は何よりも、1人でも多くの大人の目が大事だというふうに考えてございます。引き続き教育委員会としても、できる限りのことをやって参りますが、やはりその地域の状況、また、こどもたち一人一人のことを理解されている地域の方ですとか、保護者の方の声というのも大変に大切なものだというふうに感じております。こどもたちの登下校の安全につきまして、できる範囲でやっていただいておりますが、引き続き見守っていただければと考えております。

○本多教育長

ありがとうございます。今鈴木委員からいじめの話とそれから大久保委員から安全の話がありました。区長からも言っていただきましたが、私も小名木川小学校は、3日間通わせていただきました。やはりそういったこともすごい大事ななというふうに思っています。教育委員の皆さんも、こどもたちの見守り本当に積極的にしていただいて、安倍委員も毎日のように、学校に立っていただいて、こどもたちにも挨拶をして、「安部ちゃん、安部ちゃん」と言われていますが、そんな取り組みをしてもらい、我々はやはり現場に行つてそういった様子を見ていくことがまず大事だと思います。見守りの人をつけることも大事なのですが、こどもたちの様子でこどもたち自身がしっかりと自分で自分の安全を守っていくことも

大事なので、そういった教育をどうしていくかということも大事なというふうに思っています。また鈴木委員からいじめの話ですけれども、江東区は、教育委員会も学校も、かなりいじめには丁寧に対応させていただいています。このことは自負をしていますが、いじめの対応という部分では、マスコミでもいじめの件数だけがすごく報道されているところがあったり、また全国的に、重大事態のケースがすごく取り上げられたりということが多いのですが、この全国的なこの件数、細かく見ていくと、小学校1年生の低学年のいじめの件数はすごく多いです。なぜかという、こどもたち同士の小さなトラブルも、学校が見逃さずにいじめの1件としてしっかり挙げていることなんですよ。例えば友達同士でちょっとしたこと、例えばちょっと体がぶつかっちゃった、嫌な気持ちが出たって言われれば、それもいじめになりますし、大きな声を出すこどもがいてそれがすごく気になる、なんか嫌だなと思ったら、それもいじめの1つになるというところで、学校が見逃さないように丁寧に認知して報告してるからいじめの件数が増えているというのがあります。高学年それから中学生になっていくと、お互いの距離感がわかってくるので、そういったいじめは少しずつ減ってきています。全体的な部分でも、いじめの件数という部分では多くは低学年です。ただ、全国的ないろんな大きな事件を見ていくと、陰湿なものであったりとか、本当にひどいなと思うこともあります。当然それは防いでいかなきゃいけないと思います。様々な背景の中でやはりこどもたちの成長過程をしっかり僕は踏んでいく必要があるだろうと思っています。こどもたちは、友達同士の関わりの中でちょっとした失敗を重ねながら成長していくこともあるので、いじめがいいとは全く言いませんけれども、低学年でのちょっとしたトラブルっていうことを通して成長していくことがあります。大久保委員は幼稚園の連合会長をされていましたが、幼稚園の時期っていうのは、友達同士のトラブルを経験して育っていくこともあって、「もうしないでね」「わかった、ごめんね」「いいよ」という関係というのを築いていくことがとても大事だと思います。しかし、それが小学校に行くと、いじめ1件になってしまうということですね。ですので小学校低学年のいじめが多いっていうのは実はそういった現状があるので、いじめの件数をだけがトピックのように、報道されていますけれども、学校を丁寧に見ていくと実はそういったこともあるんだということに理解が必要かなと思っています。教育長会でも、非常に話題になるのは、やっぱりいじめ防止対策推進法が、このままでいいのかっていう問題が非常に話題になります。例えばいじめの定義ですね。先ほど言ったようなこともいじめになる。もっと言うと、例えば、「安部君、最近元気ないね、元気出しなよ、大丈夫だよ」とって本多君が声をかけました。でも安部君にとってみれば本多君から声をかけられたことがすごくプレッシャーになって、嫌だった。これもいじめ1件になるという、それが今の時代定義なんですね。ですのでそういったものまでいじめとして拾っていくと、なかなか人間関係をつくっていくのが難しくなると、先生方がそれを全部いじめ1件として数えていかなきゃいけない。その難しさっていうのがあります。さらに言うと、それをいじめとして認知したら、1ついじめ対策委員会を学校の中でかけて、これはいじめとして認知するかしないか判断をして、そしてその結果を教育委員会に報告をして、そういったことが全部求められているわけなんですね。なので、先生方の時間的な負担と、

それから精神的なストレスを減らすってということではこのいじめ防止対策推進法のやっぱり見直していうのも1つ必要だろうなというふうに思っています。また、いじめの重大事態のガイドラインが改定されたというのがあるのですが、これについても、被害者を守るってのはとても大事なことでありますが、23区でも全国的にもそうですけれども、その部分での学校の負担感というのも非常に出てきています。そんなところも今後見直しが必要なのかなというふうに思っております。ただ僕はよく学校で話をするのに、ラブとライクの話があります。ライクっていうのは、両方ともラブ・ライクの人が好きだっていう話で、ライクというの、同質性を求めるっていうふうに言われます。小学校低学年などで、一緒だねって、本当だねって言って、一緒一緒って言って喜んでいるような。そういったところが小学校の小さい子たちにあって、その中で、同質者でないと、何でっていう気持ちがある中でのちょっとした気持ちのずれのいじめっていうのがあります。でも成長していく中で、ラブの感覚っていうのは、どちらかというと異質のものを受け入れるものだって言われています。これは有明西学園の校長をしているときに、後期課程のこどもたちに話をしたんですが、少し成長してくると、自分と違うものを持ってる子に対して憧れをもったりとか、それに対して好きだなんて感覚を持って、それが成長していく中で、違うこともいいことなんだなっていう認めることができる、これがこどもたちの成長だと思います。これが9年間の中でこどもたちがずっと成長していく、それを全部いろんなトラブルがすべていじめとしてとらえていくと、なかなか難しいところがある。こどもたちがいろんな感情を、失敗しながらとか、ちょっとつらい思いをしながら支えられて成長していくっていうのがある中で、なかなかそういったことが、全部いじめになってくると、関わりが難しいなというところもあるなと思います。教育委員会としては今後も丁寧に対応していきますし、先ほど鈴木委員からもあったアクション24というのは、そういったことを未然に防止するということで、お互いの繋がりをしっかり持って、何か気づきがあったら早く上げていこうと取り組みをしているところです。先生方にも悩みを抱えないでと言って、アクション21をしているところです。そんなことがすごく大事だなと思っています。先ほどから出てくる江東こどもかがやきプランですね、これも今までは不登校総合対策として本当に不登校の子だけ、不登校傾向になりがちな子だけを見ていましたが、そうじゃない。学校の中にはすべてのこどもたちがいてすべてのこどもたちをどう見ていくかが必要で、それをやっていくことで、多様なこどもたちに対応できるだろうと話をしているので、みんなかがやくをテーマにしてやっていくところではありますけれども、そういったところをしっかりと進めていければなと思っています。令和7年度当初予算に向けては先ほど指導室長からもありましたけれども、校内別室指導員が非常に成果を上げていて、そのことについて区長のご判断もあり、今回、全校に配置ができるようになったっていう、本当にありがたいことだと思っています。そういった部分で多様なこどもたちを、様々な視点からしっかりと支えていきたいなというふうに思っています。

○大久保区長

ありがとうございます。ほかにご意見等ありますか。はい。安部委員

○安部委員

先ほどの教育長から、時間的余裕ということがありましたけれども、本当に大事だなと思っています。こどもたちにも、教員の方にとっても、またはその主事さんですとか、他の取り巻くシルバーさんも全部そうなんですけど、皆さんこどもを取り巻いている方々が時間的余裕がないと、心の余裕も生まれませんし、思いやりにも繋がらないっていうか、ちょっと汲々としてると、やっぱり目が向いていかないんですよね、人に。自分のことだけになってしまうので、その辺をみんなですべて守っていければなと思っています。インクルーシブ教育って言葉はよく叫ばれていますが、私からすると、様々な人を共存共栄みたいなイメージなんですけど、実際蓋を開けてみると、例えば、授業についていけなかったりとか、様々な弱者目線で、もう少しフォローしようっていう動きに重点が置かれているような気がして。一方で能力が高い児童・生徒には、どういうことをしてるのかっていうと、あまり見えてこないと思います。そういったこどもたちは、本来は将来の日本を担う大人になってくれる人だと思うので、どんどんどんどん後押しをするような、何か動きがあってもいいんじゃないかなと思っています。例えばですね、もう、学力が秀でているこどもたちには、お金を投資して、好きなことに注力させてあげたり、希望に答えるとか、あとは高校とか大学とか、飛び級に近いことをやってあげるとか、留学を支援してあげるとか、何か、そういうことは、あってもいいのかなっていうふうに感じました。もう1点ですね、毎回図書館のことで、僕は教育委員になってこんなに図書館のことを考えていただけているというのを、本当に感じています。本がもっともっと身近になる施策も、すごく考えていただいています。考え続けているのは感じるんですけども、何かもっと本に囲まれていることで気持ちが安らいだり、落ち着いたりするっていうのを、もっともっとやって欲しいなと個人的には思っていて、それこそドア以外は全部もう本だらけの環境というか、極端ですけど、そういうところきつずクラブが運営できるとか、図書館ときつずクラブが、何か連動できたら面白いのではないかなとか考えたりしてたのですが、区長何か思うところありませんか。

○大久保区長

実は、私も図書館は大好きで、東陽図書館に行くと、よく声をかけられたりしています。私も、学童、今のきつずクラブに行っていてまして、そこは文化センターの中にあつたので、図書コーナーがあつて、ずっとそこで本を読んでいました。学童が終わる時間になつても気づかずにずっと本を読んでたことを思い出しました。例えば、校内きつずクラブで学校の図書室を利用できれば、本当に本が好きなこどもはずっと本が読めると思います。そういう環境をぜひ、教育委員会と一緒に整備していきたいと思っています。

○吉木江東図書館長

ご意見ありがとうございます。図書館としては、第三次こども読書活動推進計画というのを、令和4年3月につくっております。そこの中で、学校図書館の授業活用であるとか、資料に関する相談対応であるとか、リストの作成というのを図書館と学校と連携して進めているところでございます。学校へのアプローチとしましては例えば電子図書館を開始しまして、読書活動や調べ学習等に活用していただくような環境整備をしているところでございま

す。また、司書とも何度か面談や意見交換をしたりするなど、図書館からのアプローチということで、対応しているところでございます。こどもたちへの安らぎの場所の提供であるとか、あと国語力の向上など、読書に関しては様々な効果が期待されていると思いますので、今後も、この計画に基づいて、図書館として何ができるかという検討は進めるところではありますが、ぜひ学校と連携しながら、より一層進めていければというふうに思っています。

○本多教育長

ありがとうございます。安部委員からあった、最初の能力差の話です。ギフテッド傾向と最近はいいますけれども、非常に学力の高いお子さんに対してですが、確かに今までそうではないこどもへの支援は手厚くしてきたところではあります。でもやはり一人一人を大事にするとすると、やはりギフテッド傾向のお子さんであつたりとか、やっぱり学力がすごく高くて、教室でやってる授業がその子にとってはつまらなくて、そこに座っていることが難しいということに対する理解をしっかりとしてあげなければいけないというのがあります。そういったことに対する理解を進めていくことと、どう対応していくかということが1つあります。私が有明西学園で校長をしていたときは、前期課程から後期課程まで先生方がいたので、そういったお子さんがいたときに、空き時間をみんなで調整をして、特に後期課程の先生方は空き時間も多いので、前期課程の1年生にも入ってもらってそのお子さんに寄り添い、その子が集中できることを見守り、その子に対応できるようなことを集中できることを支援するというをやってきましたけれども、そういった部分について、やはり公的な部分で我々に何ができるかっていうのも非常に大事なかなというふうに思っているところであり、共生社会っていうふうに言われている中で本当に様々な障害のあるなしじゃなくて、その人の特性だったり個性だったり、そういったことに合わせていくことが必要なかなと思います。また図書館についても安部委員からお話ありました本だらけって、言葉がありましたが、僕の名前は本が多いと書くので、本が多いのはいいなと思いますけれども、そういう大事なことで、実は今、学校図書館の整備も、江東図書館中心ですけども、学校との連携を図ろうということで、いろいろ学校にも図書館に行ってもらって見てもらったり、それから学校図書館の司書さんに行ってもらっているのも、その連携を図ったりしているところですけども、やはりこどもたちが本に触れる環境をどう作るかって、とても大事なことで、先駆けて電子図書館の導入をしたわけですけども、江東区のこどもたちは結構電子図書館をうまく使ってくれていて、区内の電子図書館の活用の部分では7割がこどもたちなので、端末をこどもたちが活用していることも、1つの影響かもしれませんが、やはり本に直接触れるってこともとっても大事なことです。そのためには蔵書数をふやさなきゃいけないというところが、大きな課題かなというふうに思っています。標準蔵書数というのがあるので、それをクリアするためにしっかりと、増やしてきてはいるのですが、その中でよく言われるのが、すごく古い本もあって、これ変わらないのかなという話を聞くこともあります。ぜひそういったところは我々もうまく変えていかなきゃいけない。その変わっていかないものってどういうものなのかっていうと、結構重たくて、大きないわゆる百科事典みたいなものが、昔のものがあつたりする。でも百科事典はどんどんアップデートしていかなければ

ばいけないものであって、そういったものが重たいから持ちにくいということがあると思うのですが、今デジタルになってきている中で、こどもたちの時間なんかも、実はデジタル化が進んでることがあります。それを見ると、こどもたちが360度、写真をグルグルっと回転させられたりとか、例えば動物の鳴き声が出てきたりとか、そういったものもあるので、例えば電子図書も蔵書数として計上できるといった形にしていくとか、新たな本を増やしていく、そういったことが大事だろうなというふうに思っています。現状の通常の図書館でも、やはり新刊本は人気があって、なかなか予約しても、借りられるまで時間かかってしまうといった状況があります。そういったことも含めてですね、蔵書を増やしていくってことは1つの課題かなと思っておりますので、その辺についてはまた区長にもご協力いただければと思います。

○鈴木委員

今朝のテレビのニュースを見て、あと思ったのですが、教職員にアンケートをしたそうで、それで、幾つかのアンケートの答えが出てたんですけれども、思ったことが二つありまして、一つは、「今の教職員の仕事のやりがいありますか」というアンケートの中で、80%台の教員が「やりがいがある」と答えていました。またもう一つ、「教員の仕事を若い人に繋いでいきたいですか」という回答は、60%台でした。ここに今の教員の深層の心理が、見えた気がします。自分は一生懸命やっているけど、若い人にちょっとやらせたくないなと。こういうことではないかなというふうに見たのですが、やはり江東区も、それから教育委員会も、こういった先生方、こどもだけじゃなくて、先生方も輝ける支援というのが必要ではないかなと感じました。やはり先生方が自信持って、この仕事を推奨したいと思わないと、つまらないのではないかなというふうに思いました。教職の家庭で育った区長としてはどのようにお考えでしょうか。また、何とか、よくしていきたいなというふうに思うのですが、どうでしょうか。

○大久保区長

ありがとうございます。振り返ると、おそらく今と制度が違うからだと思いますが、大体両親とも朝は早く出かけていました。特に父は見守りをやっていたので7時半ぐらいにはもう家を出ていったような気がします。ただ夜は両親とも19時前には帰っていて、19時ぐらいからみんなでご飯を日常的に取っていたと思います。持ち帰って仕事もしましたが、そういう生活ができていて、さらに土曜授業があったので、その代わりに夏休みが長く取れました。夏休みは家にいる時間が特に長くて、教員を選ぶ自分のこどもの子育てもできる予算もあったのかなと思います。それから制度が変わって、夏休みは職場に行かなければならないなど、どんどん余裕がなくなってきて、残業がすごく多かったり、基本的に教員になる方って、こどもが好きで教員になるので、仕事の内容自体は、多分すごくやりがいがあると思うのですが、プラスアルファの部分で、そうじゃない、大変な部分もあるとすると、先ほど各委員のお話にもあったと思うのですが、やはり教員がこどもに向き合えて、そこにやりがいを持って、ぜひこれはいいよって進めていく環境づくりは、行政、教育委員会の仕事だと思います。

○本多教育長

ありがとうございます。今、鈴木委員から話があった、働きがいって言うことですが、よく校長先生方と話をすると、働きやすさと働きがいという話をする。働きやすさばかりを追求すぎ続けていると駄目で、やはり働きがいをしっかりと見ていかないといけない。先生方の負担をどんどん減らしていくと、働きがいも減ってきてしまうところがないかっていうと、教師としてやはり指導力を向上したいなと先生方は思っているのに、その指導力の向上が働きやすさを求めるがゆえに、いろんなことがなくなってきて、自分の教師力を高めていく時間もなくなってしまったりしてしまう。ですので、働きがいと働きやすさをしっかり見ていかなきゃいけないという話はしているところです。先ほどのアンケートの話だと、働きがいややりがいは80%の人がある、しかし、それを伝えられない。僕はそれが今の先生方の状況だと思います。今の先生は、本当よく頑張っていると思います。本当によくやってくれています。昨日、実は「こうとう学びフォーラム」がありまして、こどもたちのみんな輝く姿を報告する会だったんですけど、こどもたちだけではなくて、先生方にもライブで登場してもらって、いろんなやりとりをさせていただいたんですが、そんな中で、ある先生が、こどもだけではなくて教師も輝かないといけないと話をしていました。まさにその通りだと思っていて、こどもたち、先生、そして教育に携わるみんなが輝くんだよって話をしています。そこが大切だと思っていますので、先生方もその働きがいを、しっかりと高めていかなきゃいけないと思います。先ほどの区長がご家庭の話をしましたが、誤解のないように正しく話をすると、当時、土曜日は、指定休という制度があって、土曜出勤分をまとめて取りで夏休みに持ってくることができました。夏休みをたっぷり取れたと思います。11～14日くらい取れました。それと、自宅研修制度というものがあつたので、自宅で研修をして報告書を出すというものを利用していたと思います。実はそういったこともある中でいろいろ変わってきていますが、やはり先生方が、「働いていてよかった」と思えることはすごく大切なことです。今、先生が取り上げられているテレビドラマもあるようですが、色々な角度から、あまりよくない部分もたくさん出ているところはあるのですが、やはり学校に行って先生方と話をしたり、姿を見ていると、一生懸命やってくださっています。その一生懸命やっている先生方のために、環境整備をしなければいけないと思いますし、その頑張ってる姿を、僕は学校日記で発信をしていますけれども、声を大にして伝えていかなければいけないなというふうに思っているところです。今後も区長と協力しながら、先生方のために、前に進めればと思っています。今回教育施策大綱についてご提案いただき、検討ができたことはよかったというふうに思っています。教育委員会といたしましても、教育推進プラン・江東の第3期に向けて、現在、策定委員会を開きながら、様々な方々のご意見をいただいているところであります。今後、こどもたちの意見を聞く場を作りまして、我々がこどもたちのところに行き行って聞く。それから、こどもたちに集まってもらって話を聞いたり、こども議会を開こうというような話をしているところで、様々な角度で色々な意見を聞きながら、よりよい教育を進めていければなというふうに思っているところであります。区全体としましても、4月から(仮称)こどもの権利に関する条例が施行される予定です。これまで以

上にこどもの権利をしっかりと守っていくこと、そしてこどもたちにもそれをしっかりと理解してもらうことが大切です。今、こどもたちにも、自分の意見をしっかりと述べるということを、各学校でやってもらっています。特に大事にしているのは、今スピーカープログラムというものに取り組んでいて、こどもたちに自分の思ったことを、紙に変えて読むのではなくて、自分の言葉での原稿で伝えようよっていうことをやっています。それをかなり学校で今やってくれていて、昨日、大久保委員も一緒に「こうとう学びフォーラム」を見ていただきましたけど、こどもたちが本当に自分の言葉でライブで語ったりする姿がたくさんありました。やはりそういったところ、やはりこどもの意見表明に繋がってくることもあります。そんなところをしっかりと取り組みを進めていきながら、教育推進プラン・江東を作って参りたいというふうに思っております。本日はありがとうございました。

○大久保区長

では事務局からよろしくお願いします。

○瀧澤庶務課長

ご連絡でございます。来年度、令和7年度の第1回総合教育会議の日程でございますが、来年、令和7年5月1日を予定しております。詳細が決まりましたら改めてご案内差し上げますので、ご出席をお願いいたします。なお急ぎご議論いただくべき事項が、急遽発生しました場合には、別途調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

○大久保区長

ありがとうございます。それでは以上をもちまして、第2回江東区総合教育会議を閉会します。

— 了 —